

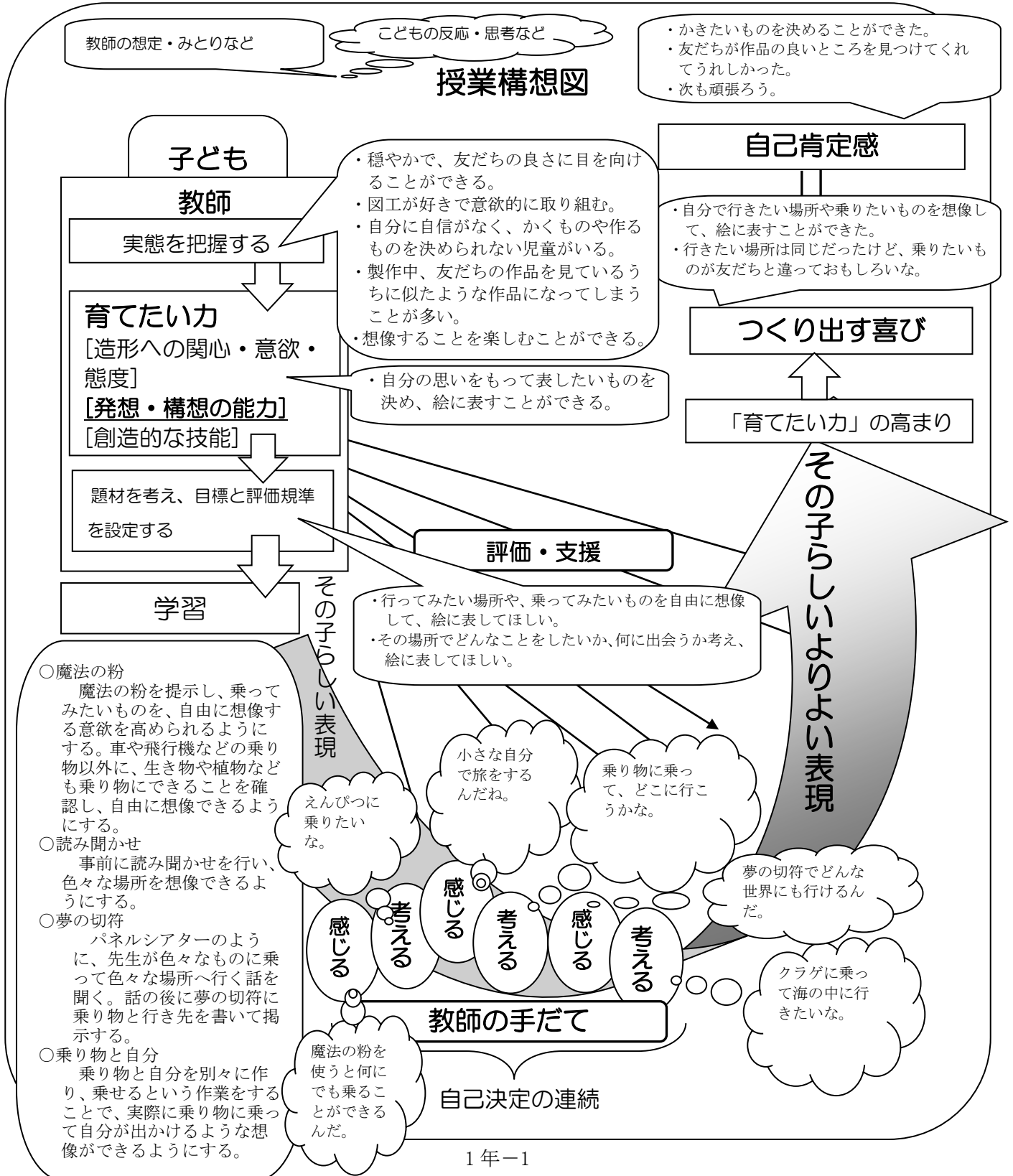
# 第1学年2組 図画工作科学学習指導案

指導者 川崎市立下河原小学校

佐藤 郁美

1. 題材名「〇〇のっていってみよう！」 A表現(2) 絵に表す 5時間扱い

2. 「その子らしいよりよい表現」につながる授業の構想



### 3. 活動場所 教室

#### 4. 題材について ～テーマにせまるために～

##### テーマ つくりだす喜びを実現できる授業をめざして

##### (1) 子どもたちの実態

全体的に穏やかで、優しい気持ちで友だちに接することができる。友だちの発言や行動に対して良さを見つけ、「いいね。」「すごいな。」と肯定的にとらえている姿が多くみられる。

図工の学習には意欲的な児童が多い。あったらいいなと思うおひさまをかく「おひさまにここに」では、おにぎりのおひさまや半月のようなおひさま、電車のようなおひさまなどがあり、自由に発想することを楽しんでいて。一方で、かきたいものをなかなか決められない児童が数名いる。学習のはじめに「どんなおひさまがあったらステキかな。」と教師が投げかけ、児童が思いついたことをいくつか板書した。その中から決定するのも、かなりの時間がかかった。また、友だちの考えを聞いて流されてしまったり、近くの席の友だちの作品と似た作品になってしまったりすることもある。そこで、一人一人が「これがかきたい」という思いをもって取り組めるようにしたい。そして、思いをもって描くことの楽しさを感じてほしい。

##### (2) 題材と育てたい力

##### 育てたい力：発想・構想の能力

自分の思いをもって表したいものを決め、絵に表す力を育てたい。表したいものを決めるのが難しい児童も「これでいい。」ではなく、「これがいい。」という思いをもって決定できるようにしたい。表したいものを決めるのは導入の時間だけではない。かき進める中でも、「こんな生き物が現れたら楽しいな。」「その場所でこんなことをしたいな。」など、表したいものを見つけて表すことができるように支援していきたい。

##### (3) 自分で「感じる」「考える」ことを大切にしたい手立て

～「その子らしいよりよい表現」につなげるために～

##### ① 「夢の切符」で行きたい場所を考えやすくする。

パネルシアターで、先生が色々なものに乗って色々な場所へ行く話を聞く。話の後に、乗り物と行き先を夢の切符に書いて掲示する。自分が乗りたいものや行きたい場所を考える際の手助けとなるようにする。

##### ② 「魔法の粉」でいろいろなものに乗れることを知る。

乗ってみたいもの考える際、実際の乗り物以外を想像することが難しいのではないかと考えた。そこで魔法の粉を提示し、どんなものも乗り物になることを伝える。乗ってみたいものを、自由に想像する意欲を高められるようにしたい。車や飛行機などの乗り物以外に、生き物や植物なども乗り物にできることを確認し、自由に想像できるようにする。

##### ③ いろいろな世界の本の読み聞かせをする。

事前に読み聞かせを何冊か行い、色々な場所を想像できるようにする。

・海 ・空 ・山 ・地中 ・あべこべの世界 ・虫たちの世界 ・おばけの世界  
・動物の世界 ・おかしの国 ・氷の国 ・サンタさんの国 など

##### ④ 乗り物と自分を別々に作る。

乗り物と自分を別々に作り、乗せるという作業をすることで、実際に乗り物に乗って自分が出かけるような想像ができるようにする。乗り物に乗った自分を自由に動かすことで、より表したいものに近づけるようにする。

## 5. 題材のねらい

○乗ってみたいものに乗って、行ってみたい場所ややってみたいことなどを自由に想像して絵に表す。

## 6. 題材の評価規準 ～ 4つの観点から育てたい力を考える ～

造形への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○乗ってみたいもので、どこに行きたいかを、想像して絵に表すことを楽しもうとしている。	○乗ってみたいものや、その乗り物に乗って行ってみたい場所を考えている。	○乗ってみたいものや、行ってみたい場所に合わせて、表し方を工夫している。	○自分や友だちのかいた絵を見せ合い、面白さを感じたり、楽しさを味わったりしている。

## 7. 準備

[ 教師 ] 画用紙、色画用紙、共同絵具 など

[ 子ども ] クレヨン、サインペン など

## 8. 指導と評価計画（5時間扱い）

	◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応	○教師のかかわり・手だて ◎「感じる」「考える」ことを大切に した手だて	評価規準【 】と 評価方法（ ）
1 次  9 0 分	○○にのっていってみよう！		
	<p>◇どんな乗り物に乗って、どんな場所に行ってみたいか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飛行機に乗って、空に行きたいな。</li> <li>・潜水艦に乗って、海の中に行きたいな。</li> <li>・電車に乗って、夢の国に行きたいな。</li> </ul> <p>◇魔法の粉を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魔法の粉があったら、乗り物じゃないものにも乗れるんだ。</li> <li>・お花に乗ってお花畑に行きたいな。</li> <li>・生き物にも乗れそうだね。</li> <li>・アリに乗って土の中に行ってみよう。</li> </ul>	<p>○「○○」にどんな乗り物が入るか想像し、自由に発言できるようにする。</p> <p>○児童が思いついた乗り物や場所を板書し、後でかきたいものを考える際の手助けとなるようにする。</p> <p>◎魔法の粉を提示し、乗り物以外の生き物や植物なども乗り物にしてよいことを伝える。</p> <p>○児童から出なかった乗り物や行き先も提示し、板書する。</p> <p>◎読み聞かせを振り返り、様々な場所を想像できるようにする。</p>	<p>【関】 乗ってみたいもので、どこに行きたいかを、想像して絵に表すことを楽しもうとしている。（発言）</p>
	のってみたいものに のってみよう！		
	<p>◇自分と乗りたいものを別々の紙にかいて切る。</p>	<p>○自分と乗り物の作り方を確認する。</p> <p>◎自分と乗りたいものを別々につくって乗せることで、乗る実感をもたせる。</p> <p>○自分と乗り物を糊付けする前に、乗り物に魔法の粉を振りかける。</p>	<p>【発】 乗ってみたいものや、その乗り物に乗って行ってみたい場所を考えている。（発言・児童の様子）</p>

<p>2 次 4 5 分 ／ 9 0 分 本 時</p>	<p>ぼうけんに しゅっぱつだ！</p>		
<p>◇行ってみたい場所を想像してかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙に行くから、宇宙人に会いたいな。</li> <li>・海の中だから、青い画用紙にかこうかな。</li> <li>・ダチョウに乗っているから、サバンナでチーターと競争したいな。</li> </ul> <p>◇乗り物に乗った自分を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もぐっている様子が分かるように、下向きに貼ろう。</li> <li>・他の虫と競争しているところにしたいから、隣に貼ろう。</li> </ul>	<p>◎読み聞かせを振り返り、行ってみたい場所を自由に想像できるようにする</p> <p>◎その場所で何に出会うのか、その場所で何がしたいのか考えて表すことができるように声をかける。</p> <p>◎場所のイメージによって選ぶことができるように、色画用紙を用意しておく。</p> <p>○絵の具を使いたい場合には共同スペースで使ってよいこととする。</p> <p>○必要に応じて、子どもたちの思いを聞き、発想を広げる声かけや支援を行う。</p> <p>◎乗り物に乗った自分を自由に動かすことで、より表したいものに近づけるようにする。</p>	<p><b>【発】</b> 乗ってみたいものや、その乗り物に乗って行ってみたい場所を考えている。 (発言・児童の様子)</p> <p><b>【創】</b> 乗ってみたいものや、行ってみたい場所に合わせて、表し方を工夫している。 (作品・児童の様子)</p>	
<p>3 次 4 5 分</p>	<p>たびの おもいで はっぴょうかいを しよう。</p>		
<p>◇お話のワークシートを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは、カンガルーの袋に入って森の中に行きました。そこでライオンや象と遊びました。</li> <li>・私はモグラに乗って地面の下にもぐりました。そこには地底人が住んでいて、地底を案内してくれました。</li> </ul> <p>◇絵を見せながら発表し、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんはぼくと同じ場所に行ったけど、乗っていくものがちがったね。</li> <li>・私も〇〇さんのように、くじらにのって海を冒険してみたいな。</li> </ul>	<p>○何に乗ってどこへ行ったのか。そこで何に出会って、何をしたのかなど、項目を提示してお話を作る。</p> <p>○発表に入る前に</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①おもしろいな</li> <li>②もっと知りたいな</li> <li>③自分も乗ってみたいな行ってみたいな</li> </ol> <p>などの項目を提示しておき、良さを見つけようという姿勢で聞くことができるようにする。</p> <p>○思いをもってかいたそれぞれの作品のすばらしさを伝える。</p> <p>○思いをもって取り組むことの楽しさや、その結果得られるものについて伝える。</p>	<p><b>【鑑】</b> 自分や友だちのかいた絵を見せ合い、面白さを感じたり、楽しさを味わったりしている。 (発言)</p>	

9. 本時の活動（3／5時間 45分）

(1) 本時のねらい

○自分が乗った乗り物で、どんな世界に行ってみたいかを想像し、かきたいものに合わせてかき方を工夫する。

(2) 本時の展開

<p>◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応</p>	<p>○教師のかかわり・手だて ◎「感じる」「考える」ことを大切に した手だて</p>	<p>評価規準【 】と 評価方法（ ）</p>
<p>㊦キャリア在り方生き方教育の視点から見て大切なこと</p>		
<p>ぼうけんに しゅっぱつだ！</p>		
<p>◇行ってみたい場所を想像して かく。 ・宇宙に行くから、宇宙人に会いたいな。 ・海の中でタコとかくれんぼしたいな。 ・海の中だから、青い画用紙にかこうかな。 ・まわりは絵の具でぬってみよう。</p> <p>◇乗り物に乗った自分を自由に動かして、貼る場所を決める。 ・飛んでいる様子が分かるように斜めにしてみよう。 ・コウモリに乗っているから、一緒に逆さまになったらおもしろいなあ。 ・海底を歩いているカニに乗っているから、画用紙の下のほうに貼ろう。</p> <p>◇今日の振り返りをする。</p>	<p>◎その場所で何に出会うのか、その場所 で何がしたいのか考えて表すことができる ように声をかける。 ○場所のイメージによって選ぶことができる ように、色画用紙を用意しておく。 ○絵の具を使いたい場合には共同スペース で使って良いこととする。 ○必要に応じて、子どもたちの思いを 聞き、発想を広げる声かけや支援を行う。</p> <p>◎乗り物に乗った自分を自由に動かす ことで、より表したいものに近づける ようにする。</p> <p>○次時の活動について確認する。</p>	<p>【発】 乗ってみたいものや、その乗り物に乗って行って みたい場所を考えている。（発言・児童の様子）</p> <p>【創】 乗ってみたいものや、行ってみたい場所に合 わせて、表し方を工夫している。（作品・児童の様子）</p>
<p>㊦思いをもって取り組むことの楽しさや、その結果得られるものについて伝える。</p>		

(校内研資料)

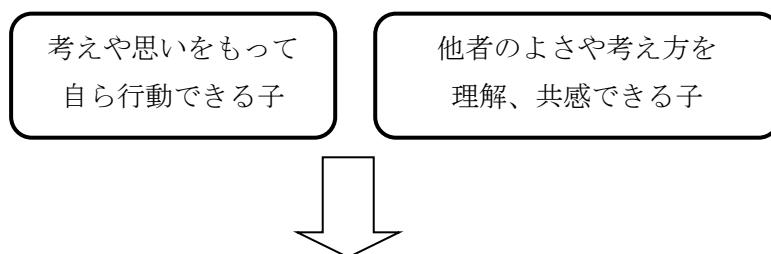
1. キャリア在り方生き方教育で身に付けたい基礎的・汎用的能力の重点
  - 自己理解・自己管理能力（考えや思いをもって自ら行動できる力）
  - 人間関係形成・社会形成能力（他者のよさや考え方を理解共感できる力）

2. 身に付けたい基礎的・汎用的能力の具体的な姿（低学年）

- 自分の考えを話すことができる。
- 友だちの話をよく聞くことができる。
- なかよく活動することができる。

3. キャリア在り方生き方教育の視点

◆目指す子ども像◆



研究テーマ

「豊かななかかわりの中で 自分の考えや思いをもって行動できる子をめざして」  
～キャリア在り方生き方教育を意識した授業づくり～

思いをもって取り組むことで、得られるものは大きい。思いをもって作り上げたものは大切にすし、自分の作品に誇りをもつことができる。たとえ納得のいく作品にならなかったとしても、次はもっとこうしようという向上心につながる。その繰り返しが、自分を高めていくことにつながっていくのではないかと考える。これは、作品作り以外にも当てはまることだ。学習や係活動、子どもたちが大人になったときの仕事に対する姿勢。何事にも思いをもって取り組み、自分を高めていける、生き生きと楽しめる大人になってほしい。

本学級の子どもたちは、他者に対してとても肯定的である。友だちの良さを見つけ、ほめたり、真似をしたりという場面がよく見られる。キャリア在り方生き方教育で身に付けたい力「人間関係形成・社会形成能力」を十分に身に付けられていると感じる。その一方で自分の考えに自信がもてず、友だちの考えのほうが良いのだと考えてしまう部分があるのではないかと考えた。その子なりに「これがかきたい。」という思いをもたせ、思いを作品にする体験を積み重ねていきたい。そして、自信をもって自分を表現できるようになってほしい。